

文化学園大学大学院
生活環境学研究科・国際文化研究科

2019 年度 活動報告書

2019年度 活動報告書 目次

1. 2019年度生活環境学研究科・国際文化研究科特別講義 A・B(オムニバス)
 - 1) 講義の全体概要
 - 2) 各講義の概要
 - 3) 今年度の試みとして

2. 2019年度大学院セミナー
 - 1) 宿泊先
 - 2) 日程およびスケジュール
 - 3) 参加教員
 - 4) 中間発表プログラム
 - 5) セミナー風景

3. 2019年度 文化学園大学大学院 生活環境学研究科・国際文化研究科 修士論文
 - 1) 修士論文発表プログラム
 - 2) 修士論文発表会講演予稿集

4. 2019年度 文化学園大学大学院 生活環境学研究科 博士論文
 - 1) 公聴会
 - 2) 公聴会風景
 - 3) 論文内容の要旨

5. 文化祭展示
 - 1) 展示期間および会場
 - 2) 学科展示ポスター

6. 2019年度 文化学園大学大学院 生活環境学研究科・国際文化研究科 研究科委員会

1. 2019年度 生活環境学研究科・国際文化研究科 特別講義A・B(オムニバス)

1) 講義の全体概要

- ① 本年度のテーマ:「ものづくりの世界の変化」について考え、意見を持つ。
- ② 開講年次・授業時間: 1・2年次選択(2単位)・水曜5限
- ③ 授業目的・方針:

大学院生は高い教養と専門能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造・発見し、その成果を社会に発信するという研究の入り口にたっている。本講義では、研究を進めるにあたり必要となる社会をみる多様な視点について考えることを目的とする。本学は幅広い学問領域で学術研究を展開しているという特徴があり、各専門分野で活躍する講師による講義を通して自身の研究や学問領域を客観視し、考えを深めていく。今回のテーマは「ものづくりの世界の変化」とし、被服学、生活環境学、国際文化の各領域の講師からの視点で講義頂くこととする。

回	開講日	内容・演題	担当講師	講師所属
1	4月24日	オリエンテーション オムニバス講義の意義と考え方	三島 万里 昼間 行雄 砂長谷由香	国際文化観光A研究室 メディア・映像研究室 服装造形学研究室
2	5月22日	コンピュータ・グラフィックスの変遷とアニメーションのデジタル化	粟飯原 君江	株白組 テクニカルディレクター
3	6月19日	社会の変化からデザインを考える	松本 章	特任教授 グラフィック・プロダクト研究室
4	6月26日	アニメーションのモーションデザインについて	荒井 知恵	メディア・映像研究室
5	7月10日	人の話を聞く、から始めてみる	高橋 正樹	インテリアデザイン研究室
6	7月24日	五感のデザイン&美育	横山 稔	インテリアデザイン研究室
7	7月31日	前期テーマの振り返りとディスカッション	三島 万里 昼間 行雄 砂長谷由香	国際文化観光A研究室 メディア・映像研究室 服装造形学研究室
8	9月17日	デジタル技術	米山 雄二 竹内 節	コニカミノルタ
9	9月25日	ファッションビジネスの視点から	金川 孝義	服装社会学研究室
10	10月9日	衣服製作における文化式原型と人体の関係	永富 彰子	服装造形学研究室
11	10月30日	IoTを活用した物づくりの現状と将来への取り組み	田島 成二	生産工学研究室
12	11月20日	つながる社会のつながるファッション- デザイナーからデザインエンジニアへの転換-	河本 和郎	服装デザイン学研究室
13	12月18日	ファッション業界におけるプロデュース業の在り方	小篠 ゆま	株ヒロココシノ/特任教授
14	1月8日	「ことづくり」を考えるー観光学の視点からー	小川 祐一	国際文化観光A研究室
15	1月15日	全体を通しての総合まとめ プレゼンテーション	三島 万里 昼間 行雄 砂長谷由香	国際文化観光A研究室 メディア・映像研究室 服装造形学研究室

2) 2019 年度 各講義の概要

授業目的・方針

大学院生は高い教養と専門能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造・発見し、その成果を社会に発信するという研究の入り口にたっている。本講義では、研究を進めるにあたり必要となる社会をみる多様な視点について考えることを目的とする。本学は幅広い学問領域で学術研究を展開しているという特徴があり、各専門分野で活躍する講師による講義を通して自身の研究や学問領域を客観視し、考えを深めていく。今回のテーマは「ものづくりの世界の変化」とし、被服学、生活環境学、国際文化の各領域の講師からの視点で講義頂くこととする。

第1回 オリエンテーション

■日 時:2019年4月24日(水) 16:20~17:50

■担当講師:三島万里、昼間行雄、砂長谷由香

■講義の概要

本年度、オムニバス授業のテーマとなる「ものづくりの世界の変化」について、自分の意見を形成することを目指す場であるという目標を提示した。初めての試みとして、オムニバス講義は「講義の第一部」と「講義受講からの自身の研究の探求の第二部」で構成される旨を説明し、講義を聴くだけでなく、その講義から自分が何を受け取ったかを把握し、その上で、自分の意見を持ち、自身の研究に繋げることの意義を伝えた。そうした具体的作業を通じて、自分の意見ひいては研究の活性化にいたる思考の射程を創ることを目標とした。また、自分の研究テーマを報告してもらい、研究内容の共有のための意見交換を行った。

第2回

■日 時:2019年5月22日(水) 16:20~17:50

■担当講師:栗飯原君江 (株)白組 テクニカルディレクター

1970年代より、主にCMを中心とした特殊合成やアニメーション制作を行なう(株)白組に在籍し、日本の映像特殊効果の歴史に残る数々のCMや特撮シーンを作り出す。大林宣彦監督作品をはじめとする、商業映画での特殊効果も多数。現在では自社制作の3DCG作品の技術について研究をしている。日本アニメーション学会会員。

■講義の概要

「コンピュータ・グラフィックスの変遷とアニメーションのデジタル化」

特別外部講師として、CM、映画などの特殊合成やエフェクトを1970年代から手掛けている栗飯原氏を招聘した。映画やCMなどがフィルムで制作されていた時代に用いられてきた光学合成、それとコンピュータ制御によるカメラが加わったのモーションコントロールなど、映像技術の発達と表現の変化が資料映像を元に解説された。その後にコンピュータ・グラフィックス(CG)の初期から現在までの歴史、所属する映像制作会社(株)白組のデモリールを元にして、製作時のワークフロー、最新の3DCGが映像の表現にもたらした変化などが紹介された。



第3回

■日時:2019年6月19日(水) 16:20~17:50

■担当講師:松本章 特任教授

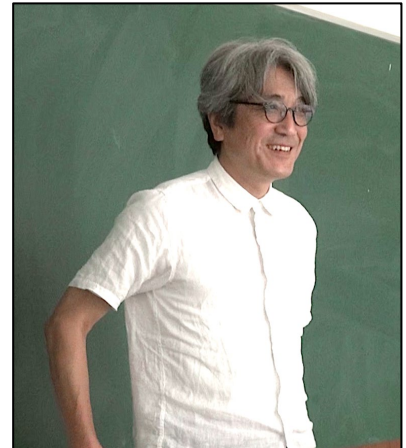
武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。GK インダストリアルデザイン研究所勤務を経て独立。2000年4月から2016年3月まで本学勤務。2017年4月より現職。印刷物などのグラフィックデザイン、企業のビジュアルシステムデザイン、商品パッケージデザイン、コンピュータ画像設計などビジュアルコミュニケーションデザインに広く関わる。

■講義の概要

「社会の変化からデザインを考える」

松本先生はデザイン会社で、多くのプロダクトデザイン、グラフィックデザインを手がけられた。実際の生活の中で使われる様々なグッズは、時代の変化に応じて登場し、それによって生活のスタイルが変化していくような事が繰り返されてきた。先生の自分史から社会の変化を読み解き、デザインの今と、これからについての考察が述べられた。高度経済成長期には個よりも集団が重視されていたが21世紀に向かう成熟社会では個人を重んじる生活スタイルとなり、1995年のPCの各家庭への浸透によって、個人個人の興味関心が分化してきた事、今後のAIの発達で無くなる職業が増えると予想されるが、本当にクリエイティブな職業は無くならないのか？についての考察をポスターのグラフィックデザインのワークフローの変化を例に解説され、誰もがクリエイターになれる時代に今後のデザインがどう変化していくのかが語られた。

第3回 講義風景



第4回

■日時:2019年6月29日(水) 16:20~17:50

■担当講師:荒井知恵 メディア・映像研究室

北アリゾナ大学美術科卒業。帰国後、ディズニーアニメーションスタジオジャパンで商業作品のアニメーターとして勤務。2002年よりフリーランスとなり、手描きアニメーター、イラストレーター、フリップブック展覧会、短編アニメーション作品の監督を続ける。

■講義の概要

「アニメーションのモーションデザインについて」

現在では、日本のアニメーションは、宮崎駿作品や新海誠作品など、世界で愛されている作品が多く生み出されている。ではその魅力はどこにあるのか？ ストーリーかキャラクターか、世界観か？ しかし、その一番はアニメーションならではの「動き」にあり、ではそれはどのようにして生み出されていくのか。動きを作るアニメーターの仕事について、自身もアニメーターである荒井先生が、アニメーションで重要な動きの作画についてその基本と、制作のワークフローについて映像資料を使って解説。また、デジタルの時代になり、スマホやタブレット端末にコマ撮りソフトをインストールすれば個人でも気軽にアニメーションが制作できる時代となったので、実際に簡単な3コマの動きをこの場で制作してみるといったミニ演習課題も行い、学生たちが初めて自分の絵を動かしてみることに挑戦した。

第4回 講義風景



第5回

■日時:2019年7月10日(水) 16:20~17:50

■担当講師:高橋正樹 インテリアデザイン研究室
千葉大学大学院自然科学研究科環境科学専攻(博士課程)。
千葉大学大学院助手ののち2004年に本学に入職。2013年に
本学教授。2015年、ミュンヘン工科大学(ドイツ)客員研究
員。本学文化・住環境学研究所所長。

■講義の概要

「人の話を聞く、から始めてみる」

人に対してインタビューし、ニーズを引き出すためのツール「評価グリッド法」について、まず2つの商品を比較し、その1つを選んだ理由についてのインタビューの方法を解説。上位(心理的な言わば抽象的な概念)と下位(具体的な物理的な概念)をインタビューで引き出し、上位、下位それぞれ引き出された回答の役割が異なる事などが解説された。次にそれを使って、学生たちが4グループに分かれて、課題として、オフィスの空間デザインの写真を用いての実験を行なった。インタビューで回答を引き出すワードと手順、回答から次の質問へのつながりなどを考えながらできるだけ上位の回答(顧客の本音が出る)を導き出すことを行ない、結果の発表を行なった。

第5回 講義風景



第6回

■日時:2019年7月24日(水) 16:20~17:50

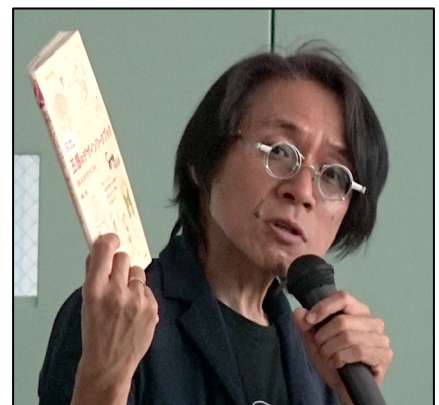
■担当講師:横山 稔 インテリアデザイン研究室
ニューヨーク プラット大学大学院インテリアデザイン学科修
了。Orange Coast College 名誉客員教授。iF product design
award 2014 marriage ring awaseru (Germany)Lifestyle
design 部門で受賞。グッドデザイン賞 2013 デザインの教科
書 / 五感のデザインワークブック (空間教育システムとし
て)。国立民族学博物館 点天展 家具作品の展示 家具作品2
点が永久保存に認定/収蔵。J-WAVE 六本木ヒルズ本社
明豊ファシリティワークスとのコラボレーションによるイン
テリアデザイン計画等の多数のインテリアデザインを手がける。

■講義の概要

「五感のデザイン&美育」

導入では、日本文化と五感とのマッチングについて、資料映像を例にして解説され、空間教育システムとして執筆された「デザインの教科書 / 五感のデザインワークブック」を元に、身体を使って空間を作る、体で感じて空間を把握する、音で空間を描く、口で相手に空間のイメージを伝えるなど、建築インテリアに関わる五感の練習をすることとは何か投げかけられた。その練習として目を閉じて1分間深呼吸する、1分間目を閉じて手の輪郭を指で感じる、A4用紙に一番古い空間的な感覚的な記憶を記載するといったワークショップを行った。この記憶の感覚を元にして書いた「感覚のポートフォリオ」を元に卒業研究に発展した学生の作品例が紹介され、その後、音楽に合わせて手を動かすレッスンと、音楽からのインスピレーションでの建築例、この教育による卒業生のインテリアデザイナーの作品が紹介された。

第6回 講義風景



第7回

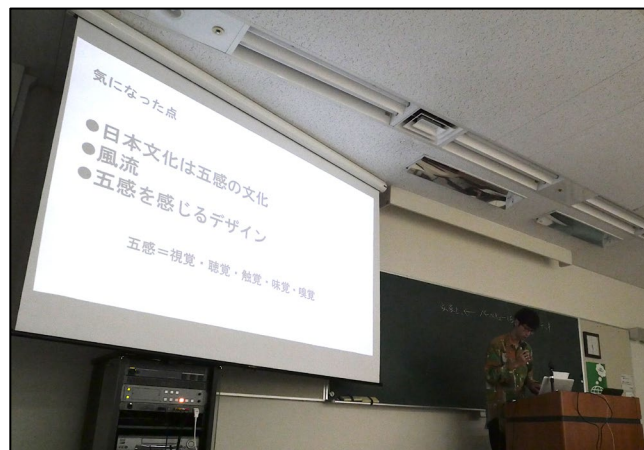
■日時:2019年7月31日(水) 16:20~17:50

■担当講師:三島万里、昼間行雄、砂長谷由香

■講義の概要

前期テーマの振り返りとディスカッション。

第2回から第6回に登壇した講師のテーマを元にその中から1つを選択して、自らの研究領域と結び付ける。そして、思考したことを可視化してレポートとしてまとめるとともに、パワーポイントを作成して発表を行なった。



第7回 学生の発表

第8回

■日時:2019年9月17日13:00~17:00

■担当講師:米山雄二、竹内節

■講義の概要

行先:コニカミノルタ東京サイト日野

住所:東京都日野市 東京都日野市さくら町1-1

目的:「コニカミノルタ「ナッセンジャーSP-1」技術解説と見学会

アパレル産業は、E-コマース (EC 市場) の伸長によりオンデマンドアパレルなどの新しいビジネスへと変革しつつある。その変化の中核となっているのが インクジェットを用いて布に直接プリントして柄を作成する“デジタルテキスタイル”の技術である。コニカミノルタの「ナッセンジャーSP-1」は、世界最速のインクジェット捺染プリンターであり、世界に数台しかない貴重なものである。

このたびコニカミノルタ (株) のご好意により、インクジェット捺染の技術解説と見学会が実現した。実物を見て、デジタルテキスタイルが開く新しいファッションビジネスの世界と、未来の可能性について考えるよいチャンスである。

暑い日ではあったが定時には出席予定者全員がコニカミノルタ東京サイト日野の所定場所に集まった。見学会の内容は以下の通りである。

13:00~ 講義 インクジェット捺染の技術について

14:00~ 見学 超高速インクジェットプリンター「SP-1」

15:00~ ワークショップ「未来のファッション産業」

17:00 終了・解散

ワークショップではコニカミノルタ様のご厚意で「KJ法」を用いたグループディスカッションを行い、学生たちは熱心に議論、その結果を発表していった。最後に集合写真を撮っていただき、それを「ナッセンジャーSPSP-1」でプリントアウトしたものをお土産にいただき、学生たちの満足度は一層高まった。



第8回 講義風景

第9回 ファッションビジネスの視点から

■日時:2019年9月25日(水) 16:20~17:50

■担当講師:金川孝義先生

■講師プロフィール 本学ファッション社会学科主任教授 服装社会学研究室に所属
(職務経験)・(株)レナウン マーチャンダイザー、企画部長、ブランド事業部長
パリ駐在員事務所所長、アクアスキュータム社(英国ロンドン)
にてライセンス担当
・伊藤忠ファッションシステム(株) コンサルタント
・(株)ムトウ(現(株)スクロール) 商品部長

■講義の概要

ファッション業界におけるものづくりの環境の変化やこれからの業界についてファッションビジネスの視点からご講義頂いた。

はじめ、国内アパレルマーケットのピーク時1991年と近年2018年について、アパレル市場規模や衣料品購入単価を比較し、国内アパレル企業衰退の原因や少子高齢化、商品単価の低下の視点から解説頂いた。さらに、世界ではどのようなブランドが成長しているかについて、サブスクリプション型ECのレコメンデーションやエアクローゼット、DtoCモデル、EC化の推進とAIの活用などの視点からファッション業界の現状をご説明頂き、デジタル・ファッションについても事例を挙げて紹介頂いた。

ファッション業界のものづくりの現状について知見を得ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

第10回 衣服製作における文化式原型と人体の関係

■日時：2019年10月9日（水） 16:20～17:50

■担当講師：永富彰子先生

■講師プロフィール 服装学部長 服装造形学研究室に所属

■講義の概要

衣服製作における文化式原型と人体の関係についてご講義頂いた。

服づくりにおけるパターンメイキングは、人体との関係（人体計測値）が必要不可欠であり、人体計測のための計測項目と計測部位や計測方法（テープメジャー計測・三次元計測他）について解説頂いた。また、本学園が定めるファッション教育用原型である文化式原型は、多くの人体計測値データの回帰式から成り立っており、人体形状・原型フォルムと原型作図（パターン）は、立体と平面展開図の関係にあることなど、構造と特徴・種類について、文化式原型作成メンバーの立場から解説頂いた。また、原型作図とは、建築の分野であれば製図設計にあたりとし、専門分野外の学生へも紐解いて紹介した。

文化学園や他大学等の学校教育課程においても活用されている、文化式原型や人体計測方法の現状について知見を得ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。



第9回 講義風景



第10回 講義風景

第11回 IoTを活用した物づくりの現状と将来への取り組み

■日時：2019年10月30日（水） 16:20～17:50

■担当講師：田島成二先生

■講師プロフィール 生産工学研究室に所属

（職務経験）・イトキン株式会社 パタンナー

- ・株式会社水原アドバンス（プレタ工場）生産企画部門チーフ
- ・株式会社三陽商会 チーフパタンナー、ニット
パターンナーチーフ兼アトリエ管理職などの技術職
- ・本学服装学部教員

■講義の概要

アパレル産業の生産構造の変遷について、従来型アパレル生産、SPA、OEM、ODM、百貨店プライベートブランド、ファクトリーブランド、ECブランドの視点でご講義頂いた。また、アパレル業界における

E コマーズの拡大について、ZOZOSUIT(スタートトゥデイ)のシステムやユニクロのサステナビリティへの具体的な取り組み内容もご紹介頂いた。

最後に、生産工学実習室の特殊ミシンや最新のニットCAD等のデモンストレーションも行われ、専門外の学生たちにも大変刺激となる機器解説であった。

第12回 つながる社会のつながるファッション—デザイナーからデザインエンジニアへの転換—

■日時：2019年11月20日(水) 16:20~17:50

■担当講師：河本和郎先生

■講師プロフィール 服装デザイン学研究室に所属

(職務経験)・イラストレーター(専門誌、雑誌、CM、ユニフォーム関連等)

- ・デザイナー(アパレル:レディース、メンズ)
- ・商品開発(ファッション、インテリア、寝具寝装品)
- ・システム開発(業務管理、連携システム、WEBシステム等)
- ・企業コンサルタント(アパレルメーカー、縫製工場)

■講義の概要

つながる社会として、AI・ビッグデータ、5G、IoT、GPS、Wi-Fi、シェア経済の視点から捉えたこれからのファッション業界を解説頂いた。

「つくる・うる」から「つながる」へは、衣料品の市場規模推移を衣料品の廃棄問題と共に、昭和から現在まで解説頂いた。

アパレルの現状として、ライザップ+アパレル、ワークマン、ZOZO、Amazon(エコールック・アレクサ)、3D技術とバーチャルコンサート、Vチューブの紹介

働くスタイルの変化から、個人がスキルを持っていればどこでも仕事はできることなど事例を挙げて概説頂いた。



第11回 講義風景



第12回 講義風景

第13回 ファッション業界におけるプロデュース業の在り方

■日時:2019年12月18日(水) 16:20~17:50

■担当講師:小篠ゆま先生

■講師プロフィール 株式会社 ヒロコシノ 副社長

(職務経歴)・株式会社ミチコジャパンロンドンスタジオ入社アシスタントデザイナー

・VISION NETWORK 入社アシスタントデザイナー

・株式会社ユマコシノアソシエイツ設立 代表取締役

■講義の概要

ファッション業界におけるプロデュース業の在り方についてご講義頂いた。

まずは、デザイナーの仕事やコレクションにおけるデザイン発想の源を、先生の日々の体験から解説頂いた。そして、洗練されたデザインとは何か、企業ユニフォームの特殊性について、プレス業務の重要性、を解説頂いた。また、デザイナーとアーティストの共通点と相違点など、ファッションに携わる学生以外に向けても通じる内容であった。

最後に、最新のコレクション作品(2019SS)を特別観覧させて頂き、デザインポイントと服の構造、立体と平面の関係など紹介頂いた。特に、実践を通す活動、体験することの大切さ、NET ではなく実際に手に取り五感を使うこと、世間で言われている良いものを見ることについてのお話は、クリエイションを学ぶ学生たちにとって大変刺激となり有意義な時間であった。



第13回 講義風景

第14回

■日時：2020年1月8日 16:20～17:50

■担当講師：小川 祐一

■講師プロフィール

本学現代文化学部国際文化・観光学科准教授。1985年に同志社大学法学部政治学科を卒業、同年日本航空株式会社に入社。2010年に同社を早期退職。2013年立教大学大学院

院ビジネスデザイン研究科博士課程前期修了。2013年から文化学園大学にて教育研究活動を行っている。

専門は、ホスピタリティ産業を中心に従業員満足度と顧客満足度の関係やホスピタリティを重視したマネジメ

第14回 講義風景



ントのあり方など、いわゆる「ホスピタリティ経営」に関する研究であるが、前職を活かした航空業、旅行業の研究も行っている。近著に「エアライン・ビジネス入門(共著)」(晃洋書房 2017)がある。

■講義の概要

「観光」の概念の説明を行ってから、世の中の「モノ消費」から「コト消費」へのパラダイムシフトに合わせて「観光」がどのように変わってきているかを紹介した。

具体的には2018年の観光庁の訪日外国人を対象として調査をもとに、訪日外国人が日本で何をしているか?どのように変わってきているか?受入側である日本が産業としてどのようなコンテンツを用意できているか?を紹介することで観光における「ことづくり」を学生一人一人に考えてもらった。

取り扱った具体的事例については、以下の4例である。いずれも履修学生の旅行に対する期待を引き出す事例であった。

①JNTO(通称:日本政府観光局)の業績例

急増した中国人を対象とするゴールデンルート(東京-富士山-京都・大阪)以外への誘致策(例:昇龍道:図表参照)など

②地方自治体による観光行政の実例(和歌山県):世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の活性化(例:ほんまもん体験)など

③車泊(くるまはく)~[総務省委託事業]九州周遊観光サービスモデル事業~

普通車やキャンピングカーを使って車中泊をしながら、自宅の家電製品を使える新しいアウトドアのカタチ

④そして今後の世の中の方向性として以下の民間企業による9事例を挙げた。

- ・ 宿泊施設や体験などの仲介プラットフォーム「Airbnb」、
- ・ 楽天 LIFULL STAY 株式会社の民泊プラットフォーム・民泊運営代行サービス「Vacation STAY」、
- ・ (株)スペースマーケットのレンタルスペース仲介プラットフォーム「SPACEMARKET」
- ・ (株)エアークローゼットのファッションレンタルサービス「Aircloset」、
- ・ (株)ディー・エヌ・エー(DeNA)の個人間カーシェアリングサービス「Anyca」
- ・ (株)DogHuggyの愛犬の宿泊先を探せるペット版民泊サービス「DogHuggy」
- ・ ecbo(株)の荷物預かりシェアリングサービス「ecbo cloak」
- ・ (株)カイアックスの暮らし体験マッチングプラットフォーム「TABICA」、
- ・ CREARC(株)の撮影機材シェアリングサービス「Totte」。

第15回

全体を通しての総合まとめとプレゼンテーション

■日時:2020年2月15日(水) 16:20~17:50

■担当講師:三島万里、昼間行雄、砂長谷由香

■講義の概要

学生たちは、前期のまとめの時と同様に少人数のグループに分かれて、後期のテーマをまず個人で思い出しながらノートを取り、自身の研究分野と結びつけながら、それらをまとめた。その上で、各人がそれらのノートを元に、自分の関心と各講師の「ものづくりの世界の変化」の関係性の議論を結び付け、5分程度の報告を、各グループで行った。そして、それぞれの発表を集約しつつ、それらの報告の中で共通する問題を各グループで抜き出し、それらをグループごとにディ

スカッションした。最終的には、それらのディスカッションの内容をグループごとにまとめ、各グループの代表が、全体に向けて報告した。

後期は、これに加えて、「ものづくりの世界の変化」における変化の身近な実例を出し合い、その変化のメリットとデメリット、そしてそれらは今後どのような方向に進んでいくのか、という問題について、各自が自身の研究の中で深められるような考察を行って終了した。このようにして、自分の意見に対する他者の評価や意見を相互で確認しあうことで、学生たちは多くの知見を把握することができた。

3) 今年度の試みとして

今年度の試みとして、第1回～第6回の前期講義終了後の第7回に、「前期テーマの振り返りとディスカッション」として、前期の講義から自身の研究に参考になった内容について、興味と関心を持った具体的な点についてパワーポイントにまとめ解説することで、自分の意見と根拠を開示し履修者で共有した。また、ディスカッションを通して各々の研究分野に踏み込んだ意見交換を行った。

第8回～第14回の後期講義終了後の第15回には、「後期テーマの振り返りとディスカッション」として、前期同様に自身の研究に参考になった講義を取り上げ、興味と関心を持った具体的な点について自分の意見と根拠を開示し履修者で共有した。前期に引き続き2度目ということもあり、ディスカッションではかなり踏み込んだ意見交換がなされた。

2. 2019 年度大学院セミナー

1) 宿泊先

文化北竜館

〒389-2322 長野県飯山市大字瑞穂 7332-2

2) 日程およびスケジュール

6月27日(木)

10:30 東京駅集合

11:24 東京駅出発(北陸新幹線はくたか561号)

13:05 飯山駅到着

14:00 文化北竜館到着

14:30 セミナー開講

15:00 特別講話「大学院での研究生活における自分で出来る心のケア」

(野口京子名誉教授)

16:00 グループ別ミーティング

18:00 夕食

19:00 教員ミーティング

6月28日(金)

7:30 朝食

9:00 修了年次生中間発表

12:00 昼食

13:00 修了年次生中間発表

18:00 夕食

6月29日(土)

7:30 朝食

9:00 グループ別ミーティング

12:00 昼食、閉講式

13:00 北竜館バス出発

14:11 飯山駅出発(北陸新幹線はくたか564号)

15:52 東京駅到着、解散

3) 参加教員

◆ 教員 (20名)

米山雄二 教授	申 恩泳 教授	永井伸夫 教授	高木陽子 教授
高村是州 教授	砂長谷由香 教授	佐藤真理子 教授	須山憲之 教授
田中里尚 准教授	柚本 玲 准教授	中沢志保 教授	渡邊秀俊 教授
押山元子 教授	昼間行雄 教授	浅沼由紀 教授	横山 稔 教授
高橋正樹 教授	久木章江 教授	安永明智 准教授	小川祐一 准教授

◆ 特別講師 (1名)

野口京子 名誉教授

◆ 事務局 (2名)

大橋芙美 教務部教務課 萩原なつみ 教務部教務課

4) 中間発表プログラム

修了年次生 博士論文・修士論文・制作題目一覧 ①

	氏名(Name)	発表時間 (Time)	題目(Title)	主指導教員 (Chief Advisor)	副指導教員 (Assistant Advisor)	専攻名 (Major)
1	アラビ セラ イェトゥンデ ALABI SERAH YETUNDE	9:20～ 9:30	日本の女性写真家と女性の眼差し	高木 陽子	トビー スレード	被服学
2	アランゴ ベガ レスリー アンドレア ARANGO VEGA LESLY ANDREA	9:30～ 9:40	現代ファッションにおける先住民の文化表現: アイヌ文化についての事例研究	高木 陽子	サミュエル トーマス 山本 奈由子	被服学
3	ダントニオ イレネ D'ANTONIO IRENE	9:40～ 9:50	仕立てられた男性性:第二次世界大戦後のスーツでイタリアと日本文化に おける理想的な男性像ステレオタイプを構築する	高木 陽子	トビー スレード 山本 奈由子	被服学
4	チャーニー ステファニー CHERN STEPHANIE	9:50～ 10:00	日本の本音とヒップホップ	高木 陽子	トビー スレード	被服学
5	フィン ステファン トーマス FINN STEPHEN THOMAS	10:00～ 10:10	ジェンダー・エンパワーメントとトランスジェンダー・エンパワーメントへの旅: 写真の視覚分析とジェンダー・アイデンティティの描写	高木 陽子	サミュエル トーマス 山本 奈由子	被服学
6	フェラドウ アヌック Ferradou Anouk	10:10～ 10:20	インスタグラムを通して魅惑の出会いを服と共有する コレクティブオンライン・アーキビズムに向けて。	高木 陽子		被服学
7	トウーレン サスキア ニコル アグネス THOELEN SASKIA NICOLE AGNES	10:20～ 10:40	グローバル化、エージェンシーとアール・ヌーヴォー: 百貨店の発展、装飾芸術と染織トレンドの国際比較研究 (1890-1930)	高木 陽子	中村 寛	被服環境学
休 憩 (10分)						
8	チャウ イコウ ZHAO YIHONG	10:50～ 11:00	多世代の居場所をつくる社区サービスセンターの提案 ～中国の江陰市を事例として～	浅沼 由紀		生活環境学
9	モウ ロ MENG LU	11:00～ 11:10	中国の若者が志向する新中式デザインの研究 -住空間のインテリアスタイルを対象として-	浅沼 由紀		生活環境学
10	キム ゼン JIN SHAN	11:10～ 11:20	ホスピタリティマネジメントと情緒的コミットメントの関係	小川 祐一		国際文化
11	ホウ カコウ 鮑 嘉蓉	11:20～ 11:30	瀋陽市の観光立都化策に関する研究-日本人観光客を中心として-	小川 祐一		国際文化
12	ウメ ケシュウ MEI KESHUANG	11:30～ 11:40	伝統工芸技術の可能性を探る研究 -大幸治をテーマとしたジュエリーの提案-	押山 元子		生活環境学
13	サイ シン QI CHEN	11:40～ 11:50	日本の伝統文様から発想したコンテンポラリージュエリー作品	押山 元子		生活環境学
14	セイ ムルイ CHENG MENGRI	11:50～ 12:00	父親に幸福感をもたらすジュエリーの作品	押山 元子		生活環境学
昼 食 (60分)						
15	コ マンネイ HU MANNING	13:00～ 13:10	介護用品の快適性研究-防水シーツの熱水分特性に着目して-	佐藤 真理子		被服学
16	ミヤガキ チハル 宮垣 智晴	13:10～ 13:20	下半身温冷覚閾値における性差及び季節差の検討	佐藤 真理子	袖本 玲	被服学
17	オカムラ モモ 岡村 百	13:20～ 13:30	ハイファッションに見るミリタリーテイストの表象	申 恩泳	田中 里尚	被服学
18	リュウ コウウ LIU GUANGYU	13:30～ 13:40	中国の環境問題と衣環境に関する研究 - 消費者の意識を中心に	申 恩泳		被服学
19	オオウボ ケンゴ 大久保 賢悟	13:40～ 13:50	編成条件の異なるウール編地の洗浄による形状変化	袖本 玲		被服学
20	コ セツキン HU XUOXIN	13:50～ 14:00	アパレル店舗におけるVMDが消費者の購買体験に対する影響 -中国人女性消費者の事例研究	須山 憲之		被服学
21	シュ ホウピン ZHU FANGMIN	14:00～ 14:10	上海市場のラグジュアリーブランド子供服の購買行動に関する研究	須山 憲之		被服学
休 憩 (10分)						

発表時間	発表+質疑応答
博士前期・修士	5分 + 5分
博士後期	10分 + 10分

修了年次生 博士論文・修士論文・制作題目一覧 ②

	氏名(Name)	発表時間 (Time)	題目(Title)	主指導教員 (Chief Advisor)	副指導教員 (Assistant Advisor)	専攻名 (Major)
22	オウ シン 汪 臻	14:20～ 14:40	アパレルにおける在日外国人消費者の購買行動に関する研究	須山 憲之		被服環境学
23	ソウ ガン SONG YAN	14:40～ 14:50	「かわいい」をモチーフとしたメンズ・ファッションイラストレーションの研究	高村 是州		被服学
24	ジョ キョク XU YU	14:50～ 15:00	リユース文化の実態と発展	田中 里尚		被服学
25	テン カウ CHENG JIAYU	15:00～ 15:10	住宅のバリアフリー効果の可視化に関する基礎的研究	高橋 正樹		生活環境学
26	ノグチ ナツミ 野口 夏美	15:10～ 15:20	視覚化による積載荷重の説明性に関する研究 -オフィス使用者向けの説明ツールの検討-	久木 章江		生活環境学
27	ウェイ ズーミン WEI ZUMING	15:20～ 15:30	在日外国人における災害時の避難行動に関する研究 -地震および台風を対象とした意識調査-	久木 章江		生活環境学
28	ハヤシ サエカ 林 芽香	15:30～ 15:40	ラジオのある生活 深夜放送からみるリスナーコミュニティ	昼間 行雄		生活環境学
休 息 (15分)						
29	ホン シュウ BEN XU	15:55～ 16:05	中国の藍印花布と、日本の藍型染めの共通点と違いについて	昼間 行雄		生活環境学
30	シュウ テンチ ZHOU TIANCHI	16:05～ 16:15	日本と中国の相互理解を促すための文字デザイン	松本 章		生活環境学
31	ハン ケイレン 潘 慧瑾	16:15～ 16:25	日常生活における怒りの対処行動に関する研究: 自己開示の効果	安永 明智		国際文化
32	チン チョウ CHEN ZHI	16:25～ 16:35	1880年頃の授乳用コルセットの構造と特徴について -レプリカ製作を通しての分析-	砂長谷 由香		被服学
33	エンヘバヤル エングーン ENKHBAYAR ENGUUN	16:35～ 16:45	capella gobiensis (ゴビ砂漠のチャペル)	横山 稔		生活環境学
34	シュ シシユン ZOU ZHIJUN	16:45～ 16:55	soul tea - 伝統的な茶道を再生し体験できる茶室の設計	横山 稔		生活環境学
35	オガワ ユカ 小川 裕耶	16:55～ 17:05	高分子材料中のソフトセグメントへの色素移動	米山 雄二		被服学
36	シュ テイメイギ ZHU ZHENGMINGXI	17:05～ 17:15	光と反射素材により自分を再発見することができる空間	渡邊 秀俊		生活環境学

発表時間	発表+質疑応答
博士前期・修士	5分 + 5分
博士後期	10分 + 10分

Doctoral and Master's Thesis Titles ①

Name	Title
SERAH-YETUNDE ALABI	Female Japanese Photographers and the Female Gaze
LESLEY ANDREA ARANGO VEGA	REPRESENTING INDIGENOUS CULTURE IN CONTEMPORARY FASHION A case study of Ainu culture
IRENE DANTONIO	Tailored Masculinity: Constructing the Ideal Masculine Stereotype in Italian Culture Through Suits After World War II
STEPHANIE CHERN	KEEPING IT REAL IN HIP-HOP JAPAN
STEPHEN THOMAS FINN	Gender Empowerment and the Journey to Transgender Empowerment: A Visual Analysis of Photography and the Portrayal of Gender Identity
Ferradou Anouk	Sharing Enchanted Encounters with Clothes through Instagram: Towards a Collective Online-Archivism.
THOELLEN SASKIA NICOLE AGNES	Globalization, Agency and Art Nouveau: An International Comparative Study on the Development of Japanese Department Stores and Their Promotion of Decorative Arts and Textile Trends (1890-1930)
Break (10min)	
ZHAO YIHONG	A proposal of community service center with comfortable place for a multi-generational - A case study of Jiangyin, Jiangsu province, China
MENG LU	Research on New-Chinese-style Design for Chinese Youth -For the interior design style of the living space-
JIN SHAN	Relationship Between Hospitality Management And Emotional Commitment
BAO JIARONG	Research on Sightseeing Promotion Plan of Shenyang City, Focusing On Japanese Tourists
MEI KESHUANG	A research to explore the possibilities of the traditional craft techniques A proposal for jewelry on the subject of Dazai Osamu
QI CHEN	Production of contemporary jewellery inspired by traditional Japanese pattern
CHENG MENGRI	A study on the works of jewellery that bring happiness to the father
Lunch (60min)	
MANNING HU	Comfort Research of Nursing Care Product: Focusing on Thermal and Moisture Properties of Waterproof Sheet
CHIHARU MIYAGAKI	A Study on Sex and Seasonal Differences in Cold/Warm Thresholds of the Lower Body
MOMO OKAMURA	Representation of military taste in high fashion
LIU GUANGYU	A study on environmental issues and clothing environment in China - Focusing on consumers' environmental consciousness
KENGO OKUBO	Change of wool knitted structure by washing
HU XUOXIN	Research for Influence of Visual Merchandising at Apparel Shop on Consumer Buying Experience -Case Study of Chinese Female Consumers
ZHU FANGMIN	Research for Consumer Buying Behavior of Luxury Children Brands -Case of Consumers Living in Shanghai
Break (10min)	

Presentation time / Q & A time	
Masters	5min + 5min
Doctoral	10min + 10min

専攻名	Major
被服環境学	Doctoral Program in Environmental Clothing Studies
被服学	Master's Program in Clothing Science Studies
生活環境学	Master's Program in Living Environment Studies
国際文化	Master's Program in Humanities and Intercultural

Doctoral and Master's Thesis Titles ②

Name	Title
WANG ZHEN	Research for Consumer Purchasing Behavior of Foreign Residents in Japan toward Apparel Merchandise
SONG YAN	Study of Men's Fashion Illustration based on "Kawaii"
XU YU	Actual Condition and Development of Reuse Culture
CHENG JIAYU	Basic Research on Visualization Method for Health Effects of Barrier-Free House
NATSUMI NOGUCHI	Accountability to User for Live Load using Visualization -Examination of explanatory tools for office users-
WEI ZUMING	Research on Evacuation Behavior at the time of Disaster Among Foreigners in Japan -Consciousness Analysis for the Earthquake and Typhoon-
SAEKA HAYASHI	A Life With Radio : A study of Listener communities of late-night radio programs.
Break (15min)	
BEN XU	the research on common points and differences between Chinese blueprint cloth and Japanese blue stain
ZHOU TIANCHI	The typography designs to promote the understanding between Japan and China.
PAN HUI-LIEN	Strategy for coping with anger in daily life : the effect of Self-Disclosure
ZHI CHEN	1880's Nursing Corset Structure and Characteristics—Analysis through replica production—
ENKHBAYAR ENGUUN	capella gobiensis
ZOU ZHIJUN	soul tea—the revival of the traditional tea ceremony and the design of the teahouse where can experience that
YUKA OGAWA	Colour Transfer to Soft Segments in Polymers
ZHU ZHENGMINGXI	The space that can rediscover oneself by light and reflection material

Presentation time / Q & A time	
Masters	5min + 5min
Doctoral	10min + 10min

専攻名	Major
被服環境学	Doctoral Program in Environmental Clothing Studies
被服学	Master's Program in Clothing Science Studies
生活環境学	Master's Program in Living Environment Studies
国際文化	Master's Program in Humanities and Intercultural

5) セミナー風景



今年は新幹線で移動
飯山駅からバスで文化北竜館に到着



セミナー開講 米山先生からセミナー参加学生へ訓示



特別講話「大学院での研究生活における自分で出来る心のケア」(野口京子名誉教授)



初日にはグループ別ミーティングが行われた



2日目は午前、午後と修了年次生の中間発表



熱心な聴講 多くの質疑が行われた



文化北竜館からの眺望



野沢温泉付近でフィールドワーク



北竜湖を背景に記念撮影

3. 2019年度 文化学園大学大学院 生活環境学研究科・国際文化研究科 修士論文

1) 修士論文発表プログラム

2019年度 文化学園大学大学院 生活環境学研究科・国際文化研究科 修士論文発表会 プログラム

2020年2月26日(水)、27日(木) C101教室

司会:高木陽子 佐藤真理子 小川祐一 高橋正樹

発表時間:1人15分(発表10分、質疑5分)

■1日目 2月26日(水) 9:30-15:45

9:30-9:40 開会の挨拶 文化学園大学 学長 濱田勝宏 教授

【被服学専攻】 9:40-11:10

時間	氏名	テーマ	専修	指導教員
9:40-9:55	オカムラ モモ 岡村 百	ハイファッションに見るミララーティストの表象	服装社会学	申恩泳 教授
9:55-10:10	リュウ コウウ LIU GUANGYU	中国の環境問題と衣環境に関する研究 —消費者の意識を中心に	服装社会学	申恩泳 教授
10:10-10:25	イチノセ ジョリ 一ノ瀬 珠里	安土桃山時代から近現代における陣羽織の変遷	ファッション 文化	田中里尚 准教授
10:25-10:40	ジョウ ギョウ X U Y U	リユース文化の実態と発展 日本と中国を中心に〜	ファッション 文化	田中里尚 准教授
10:40-10:55	コ セツケン HU XUOXIN	アパレル店舗におけるVMDが消費者の購買体験に対する影響 —中国人女性消費者の事例研究	ファッション ビジネス	須山憲之 教授

休憩 10:55-11:10

【国際文化専攻】 11:10-11:55

11:10-11:25	ヘン ケイレン 潘 慧璉	日常生活における怒りの対処行動に関する研究—自己開示の効果	健康心理学	安永明智 准教授
11:25-11:40	キム セン JIN SHAN	ホスピタリティマネジメントと組織風土の関係について Relationship Between Hospitality Management and Organizational Climate.	国際文化	小川祐一 准教授
11:40-11:55	ホウ コウウ 鮑 嘉蓉	瀋陽市の観光立都化策に関する研究—日本人観光客を中心として—	国際文化	小川祐一 准教授

昼休み 11:55-13:00

【被服学専攻】 13:00-14:15

13:00-13:15	アラビ セラ ALABI SERAH イェトクンヂェ YETUNDE	Female Japanese Photographers and the Female Gaze	Global Fashion	高木陽子 教授
13:15-13:30	アラランゴ ベガ レ ARANGO VEGA スリーアンドレア LESLEY ANDREA	REPRESENTING INDIGENOUS CULTURE IN CONTEMPORARY FASHION : A case study of Ainu culture 現代ファッションにおける先住民の文化表現:アイヌ文化についての事例研究	Global Fashion	高木陽子 教授
13:30-13:45	ダントニオ D'ANTONIO イレネ IRENE	Tailored Masculinity : Constructing the Ideal Masculine Stereotype in Italian and Japanese Culture Through Suits After World War II 仕立てられた男性性・第二次世界大戦後のスーツでイタリアと日本文化における理想的な男性像ステレオタイプを構築する	Global Fashion	高木陽子 教授
13:45-14:00	チャー CHERN ステファニー STEPHANIE	Hip-hop and Hon'ne in Japan	Global Fashion	高木陽子 教授
14:00-14:15	フィン ステファン FINN STEPHEN トーマス THOMAS	Empowerment and the Transgender Journey to Empowerment : A Visual Analysis of Photography and the Portrayal of Gender Identity. ジェンダー・エンパワーメントとトランスジェンダー・エンパワーメントへの旅:写真の視覚分析とジェンダー・アイデンティティの描写.	Global Fashion	高木陽子 教授

休憩 14:15-14:30

【被服学専攻】 14:30-15:45

14:30-14:45	オガワ ユカ 小川 裕耶	高分子材料中のソフトセグメントへの色素移動	テキスタイル デザイン学	米山雄二 教授
14:45-15:00	コ マンネイ HU MANNING	介護用品の快適性研究－防水シートの熱水分特性に着目して－ Comfort Research of Nursing Care Product : Focusing on Thermal and Moisture Properties of Waterproof Sheet	服装機能学	佐藤真理子 教授
15:00-15:15	ミヤガキ テハル 宮垣 智晴	下半身温冷覚閾値における性差及び季節差の検討 A Study on Sex and Seasonal Differences in Cold/Warm Thresholds of the Lower Body	服装機能学	佐藤真理子 教授
15:15-15:30	ソウ ガン SONG YAN	「かわいい」をモチーフとしたメンズ・ファッションイラストレーションの研究	アドバンスト ファッション デザイン	高村是州 教授
15:30-15:45	チン チョウ CHEN ZHI	1880年頃の授乳用コルセットの構造と特徴について ーオリジナルコルセットとの比較とレプリカ製作を通しての分析ー	アドバンスト ファッション デザイン	砂長谷由香 教授

※	オウ カネイ WANG JIANING	Research on subjective and objective evaluation of optical illusion apparel images	服装機能学	永井伸夫 教授
※	ジョー サンサン XU SHANSHAN	Study on the correlation between the feature quantity of finger signal and the subjective evaluation factor	服装機能学	佐藤真理子 教授

※ ダブルディグリープログラムにつき、発表を省略

■2日目 2月27日(木) 9:30-12:25

【生活環境学専攻】 9:30-10:30

9:30-9:45	サイ シン QI CHEN	日本の伝統文様から発想したコンテンポラリージュエリー作品	生活造形学	押山元子 教授
9:45-10:00	ハヤシ サエカ 林 冴香	ラジオのある生活 ～深夜放送からみるリスナーコミュニティ～	生活造形学	星間行雄 教授
10:00-10:15	ホン ショウ BEN XU	中国の藍印花布と、日本の藍型染めの共通点と違いについて	生活造形学	星間行雄 教授
10:15-10:30	シュウ テンチ ZHOU TIANCHI	日本と中国の相互理解を促すための文字デザイン	生活造形学	松本章 特任教授

休憩 10:30-10:45

【生活環境学専攻】 10:45-12:15

10:45-11:00	チャウ イコウ ZHAO YIHONG	多世代の居場所をつくる社区サービスセンターの提案 ー中国の江陰市を事例としてー	建築・ インテリア学	浅沼由紀 教授
11:00-11:15	モウ ロ MENG LU	中国の若者が志向する新中式デザインの研究 ー住空間のインテリアスタイルを対象としてー	建築・ インテリア学	浅沼由紀 教授
11:15-11:30	テン カウ CHENG JIAYU	身体活動量による住宅のバリアフリー効果の可視化に関する基礎的研究	建築・ インテリア学	高橋正樹 教授
11:30-11:45	ウェイズーミン WEI ZUMING	在日外国人の地震に対する防災意識に関する研究 ー留学生と日本人を対象とした調査の分析ー	建築・ インテリア学	久木章江 教授
11:45-12:00	シュ シシユン ZOU ZHIJUN	soul teaー伝統的な茶道を再考し体験できる茶室の設計	建築・ インテリア学	横山稔 教授
12:00-12:15	シュ ZHU テイメイギ ZHENGMINGXI	光と反射素材により自分を再発見することができる空間	建築・ インテリア学	渡邊秀俊 教授

12:15-12:25 閉会の挨拶 文化学園大学 大学院 生活環境学研究科 研究科長 米山雄二 教授



修士論文発表会 発表風景

2) 修士論文発表会講演予稿集の部分は非公開です

4. 2019年度 文化学園大学大学院 生活環境学研究科 博士論文

1) 公聴会

日 時 : 2020年2月19日(水) 10:00～
 2月20日(木) 14:00～
 会 場 : 文化学園大学 C館10階 C101番教室

2月19日(水) 10:00～

時 間	発 表 者	論 文 題 目
10:00～ 11:30	オウ シン 汪 臻	日本のファッション産業における消費者行動の研究

2月20日(木) 14:00～

時 間	発 表 者	論 文 題 目
14:00～ 15:30	ト ヴ ェ レ シ サ ス キ ア THOELÉN Saskia ニ コ ル ア グ ネ ス Nicole Agnes	アール・ヌーヴォー期におけるグローバル化とアート戦略 着物を通して見る三越の百貨店化プロセス Globalisation and Strategic Change through Art Promotion during the Art Nouveau Period in Japan Mitsukoshi's Departmentisation Process Analysed through its Kimono Fashioning Activities

2) 公聴会風景



2) 論文内容の要旨は、別途ポジトリに公開されていますのでそちらをご覧ください

5. 文化祭展示

1) 展示期間及び会場

展示期間 2019年 11月 3日(日)～11月 5日(火)

展示会場 A館 18階 A181 教室

2) 学科展示・ポスター

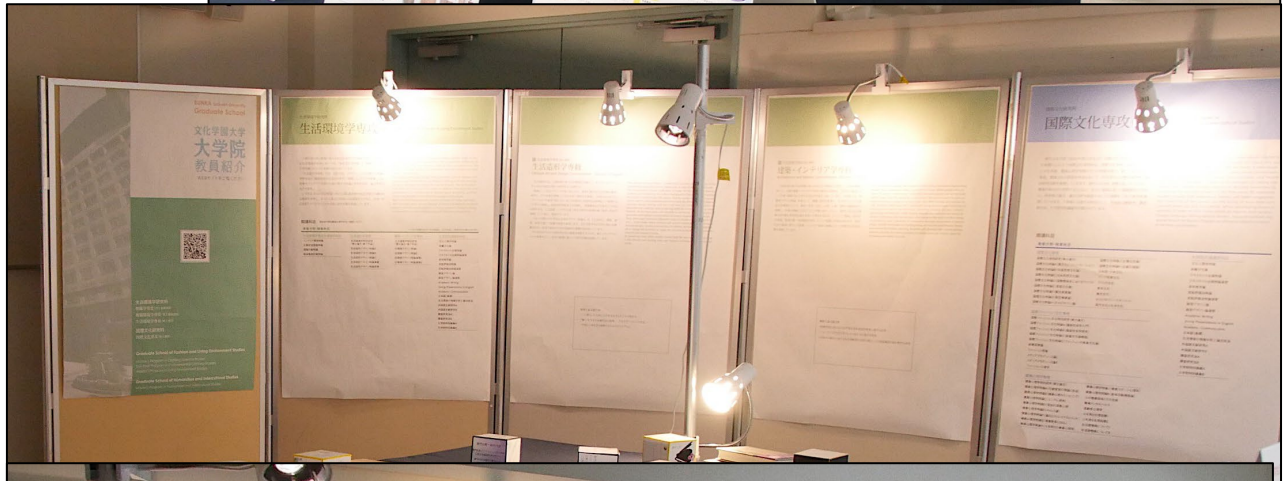


↑会場入口

会場全景→



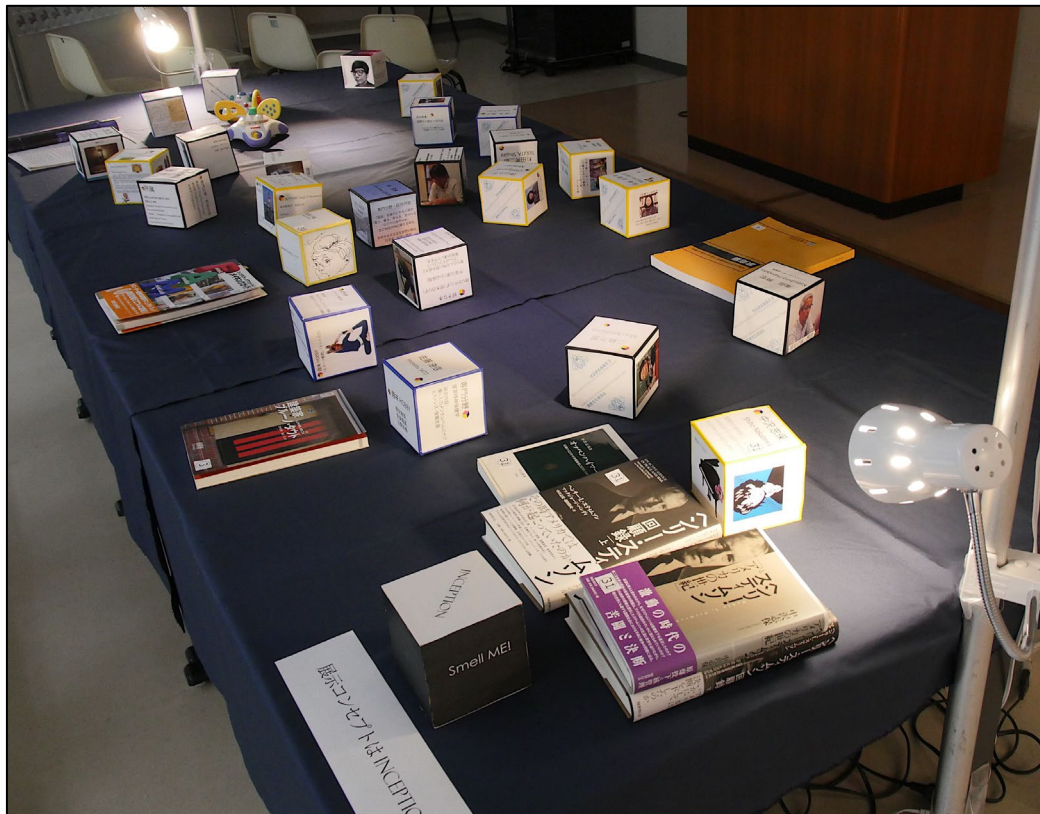
ポスター展示↓



プレゼンの上映→



教員展示↓





6. 2019 年度 文化学園大学大学院 生活環境学研究科・国際文化研究科 研究科委員会

生活環境学研究科長 米山雄二 教授 国際文化研究科長 中沢志保 教授

濱田勝宏 学長・教授

渡邊 秀俊 教授 石田 名都子 教授

申 恩泳 教授 星野 茂樹 教授 三島万里 教授

永井 伸夫 教授 浅沼 由紀 教授 杉田秀二郎 教授

高木 陽子 教授 横山 稔 教授 高橋 正樹 教授 押山 元子 教授

高村 是州 教授 久木 章江 教授 砂長谷由香 教授

佐藤真理子 教授 須山 憲之 教授 昼間 行雄 教授

田中 里尚 准教授 柚本 玲 准教授

佐藤 浩信 准教授 安永 明智 准教授 小川 祐一 准教授

事務局

清木 孝悦 事務局長

円谷 葉子 教務部長

高野 博子 教務課長

山田 亜希子 教務課長補佐

大橋 英美 教務課主事

(敬称略 順不同)

2020 年 9 月

編集担当 三島 万里

昼間 行雄

砂長谷由香